

# これからのデジタル社会において 身に付けるべきリテラシーの指標の在り方等

---

東京国際工科専門職大学

齋藤 長行

# 自己紹介

- 齋藤長行（さいとう ながゆき）

- 現職

- 東京国際工科専門職大学 工科学部 教授
- お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 客員教授
- 総務省情報通信政策研究所特別研究員

- 主な委員・役職

- 経済協力開発機構(OECD)科学技術産業局(STI)ポリシーアナリスト  
インターネットの青少年保護政策担当（2012年～2013年）
- 経済協力開発機構（OECD）デジタル経済セキュリティ・プライバシー作業部会（WPSPDE）日本代表団
- OECDオンライン上の子どもの保護勧告改訂委員会 エキスパートグループ 委員
- 「デジタル環境の子どもに関するOECD勧告」の策定に貢献



博士  
(メディアデザイン学)

社会  
情報学

行動  
経済学

教育  
工学

# アウトライン

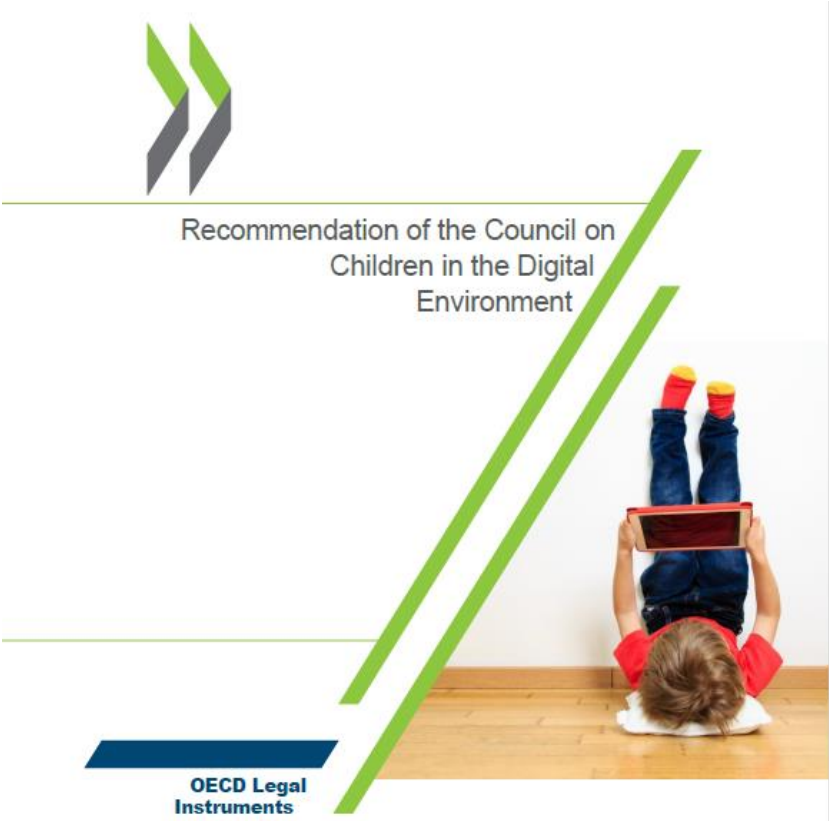
---

- 1. OECDにおけるデジタル環境政策の概説
- 2. インターネットリテラシー指標 (ILAS)の概説
- 3. 政策立案フレームワークを再考する

# 1. OECDにおけるデジタル環境政策の概説

---

OECD (2021). "Recommendation of the Council on OECD Legal Instruments Children in the Digital Environment"

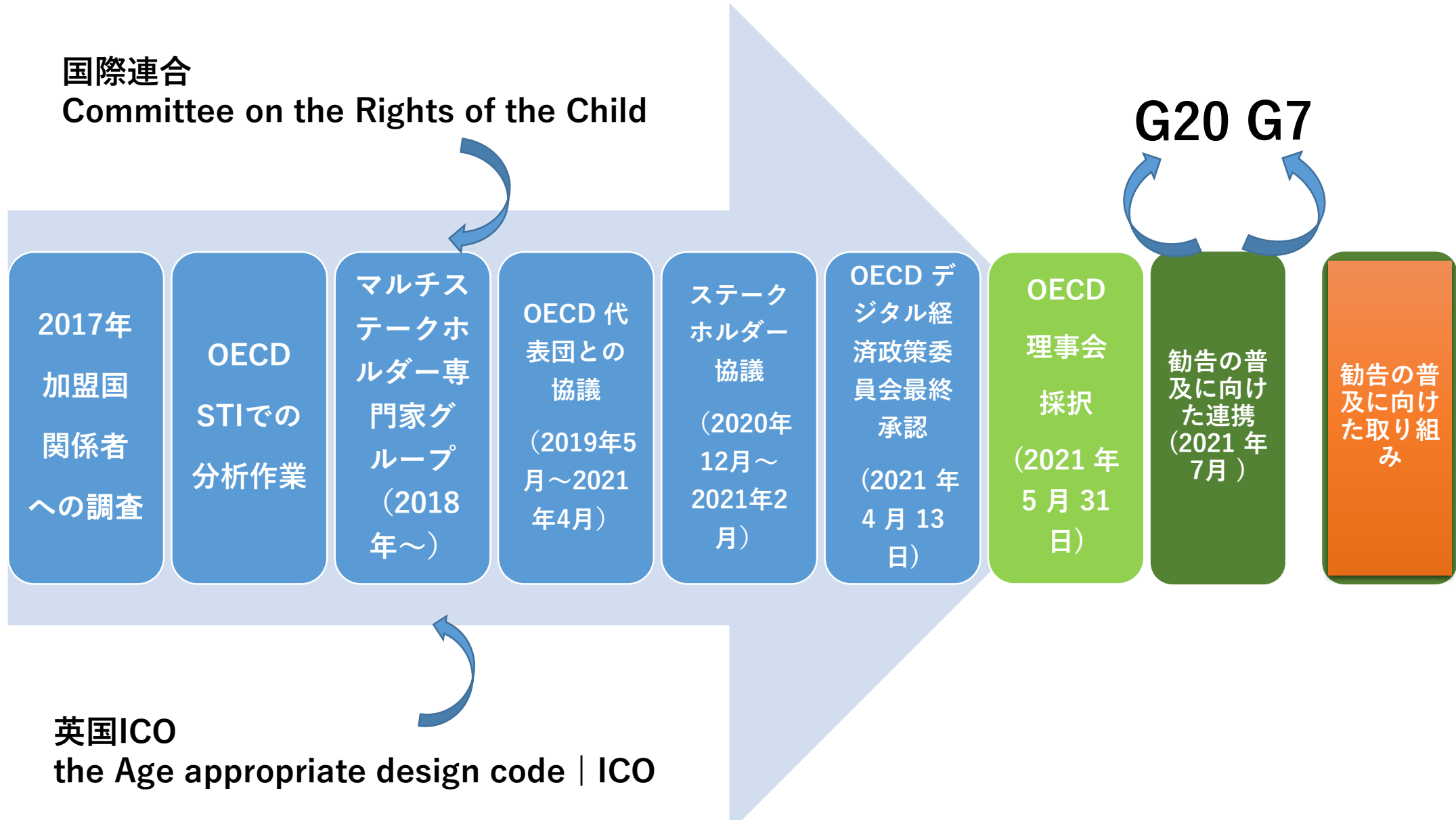


# OECD チューリッヒ大学専門家会議 2018



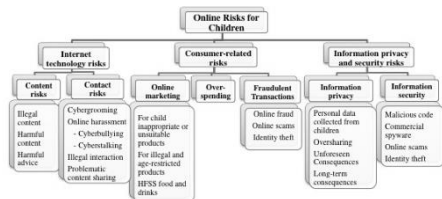
出所：折田先生撮影(2018)

# OECD勧告の開発過程



出所：OECD (2021). “recommendation on children in the digital environment”に加筆

# OECDの定義によるデジタル・リスクのタイポロジー



旧リスクタイポロジー (2011)

子どものデジタル環境におけるリスク				
カテゴリー	コンテンツ・リスク	行動（振舞）上のリスク	コンタクト・リスク	消費者リスク
横断的なリスク	プライバシーリスク（対人関係、組織上、商業利用） 先端テクノロジーリスク（例：IoT、予測、分析、バイオメトリクス） 健康と幸福に関するリスク			
リスクの症状	ヘイトコンテンツ	ヘイト的な行動	ヘイト的な遭遇	マーケティング・リスク
	有害コンテンツ	有害な行動	害を及ぼす遭遇	商用プロファイリング・リスク
	違法コンテンツ	違法な行動	違法な遭遇	ファイナンシャル・リスク
	偽情報	ユーザーの生成による問題行動	その他の問題のある遭遇	セキュリティ・リスク



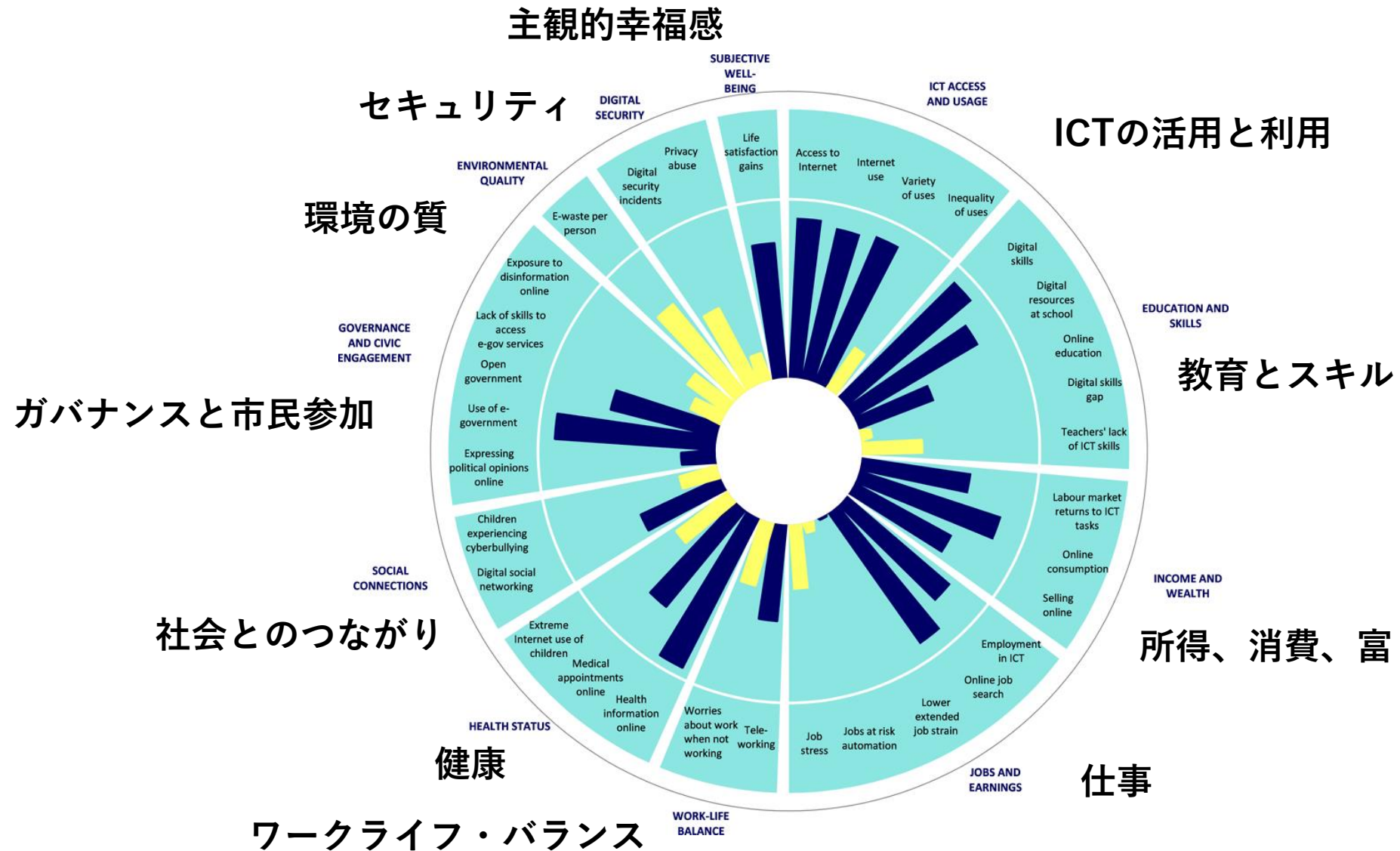
# デジタル環境の子どもに関する OECD勧告の構造



デジタル環境の子どもに関する OECD勧告			
セクション	安全で有益なデジタル環境の原則	包括的な政策枠組み	国際協力
サブセクション	基本的価値 子どもの最善の利益	リーダーシップとコミットメント	国際ネットワークの推進
	エンパワーメントと回復力	法律	情報の共有
	バランスと人権の尊重	デジタルリテラシー	地域的および国際的な能力開発を支援
	適切性とインクルージョン	エビデンスに基づく政策	国際機関との良好な協調を確保する
	責任、協力、積極的な関与の共有	チャイルドセーフティ・バイデザイン	

出所：OECD (2021). "Recommendation of the Council on OECD Legal Instruments Children in the Digital Environment"

# OECDによるデジタル・ウェルビーイングの指標



# OECDによるデジタル・ウェルビーイングの指標①

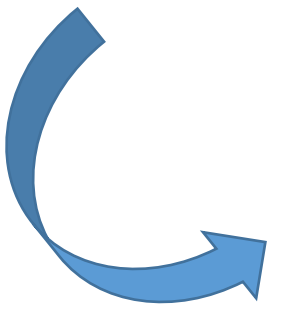
領域	項目
ICTの活用と利用	1 デジタル・インフラへのアクセス
	2 個人のインターネット利用
	3 多様なインターネットの利用
	4 インターネット利用における不平等
教育とスキル	5 デジタル・スキル
	6 デジタルスキルのギャップ
	7 学校におけるデジタルリソース
	8 教員のICTスキル不足
	9 オンライン授業
所得、消費、富	10 デジタルスキルに関連する賃金プレミアム
	11 オンライン消費
	12 オンライン販売
仕事	13 ICT産業への就職
	14 就職活動におけるインターネット利用
	15 仕事の自動化の度合
	16 コンピュータによる業務負担の軽減
	17 コンピュータを使用する仕事へのストレス

# OECDによるデジタル・ウェルビーイングの指標②

領域	項目
ワークライフ・バランス	18テレワークの普及
	19非稼働時の仕事に関する悩みの増加
健康	20診療予約のオンライン化
	21健康情報へのオンラインアクセス
	22子どもたちのデジタル依存性
社会とのつながり	23オンライン・ソーシャル・ネットワークの活用
	24子どものネットいじめの経験
ガバナンスと市民参加	25人々のネット上における意見の表明
	26個人におけるオンラインでの公的機関とのやりとり
	27オープン・ガバメント・データの利用可能性
	28スキル不足により電子政府サービスから排除される個人
	29偽情報を体験した個人
環境の質	30一人当たりのデジタル廃棄物の発生量
セキュリティ	31サイバーセキュリティ上の問題を体験した個人
	32個人情報不正利用を体験した個人
主観的幸福感	33インターネット接続で得られる生活満足度

# DQ Instituteの デジタルウェルビーイングとデジタルシチズンシップのマトリックス

Digital Wellbeing										
	Digital Safety & Security	Digital Rights & Responsibilities	Digital Communication	Digital Emotional Wellbeing	Digital Creativity and Empowerment	Digital Health & Self-care	Digital Consumption	Digital Employment & Entrepreneurship	Digital Civic Participation	Digital Political Literacy
Digital Skills	Safe and Secure Use	Rights and Responsibilities Online	Communicative Literacy	Emotional Literacy	Creative Literacy and Empowerment	Health Literacy	Consumer Awareness and Literacy	Productive Skills		Digital Political Literacy
Digital Identity	Secure Identity Management	Responsible Online Identity	Participation and Identity Formation	Empowerment	Content Creation and Evaluation	Self-care and Reputation	Autonomy and Data Management	Career Identity		Digital Political Identity
Digital Engagement & Agency	Safe Online Participation	Digital Progress Management	Collaboration and Communication	Solidarity and Relationship Management	Digital Creativity and Innovation	Healthcare and Social Wellbeing	Consumer Rights and Co-ownership	Innovation and Entrepreneurship		Digital Political Action



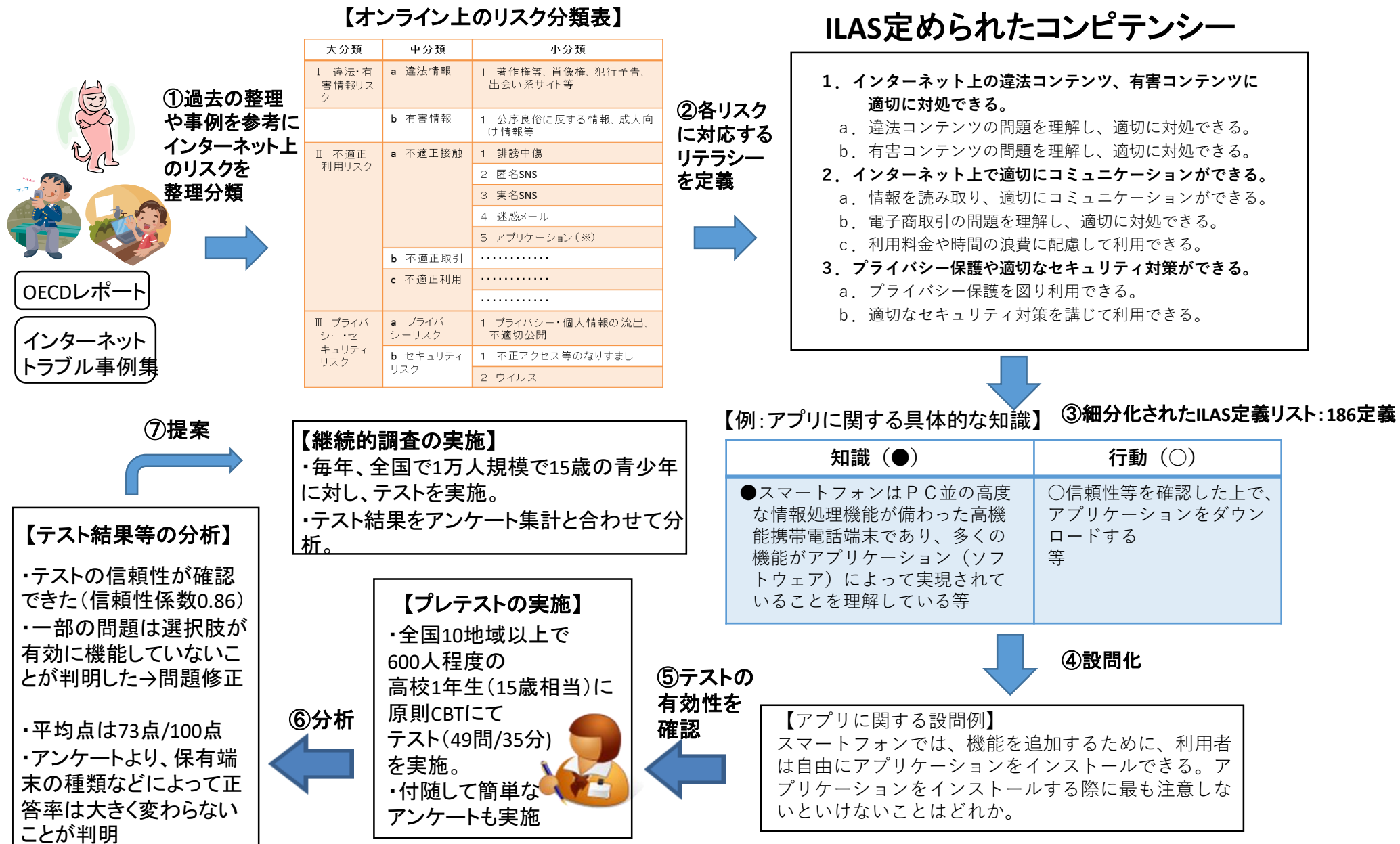
デジタル・ウェルビーイング									
	デジタル・セーフティとセキュリティ	デジタルの権利と責任	デジタル・コミュニケーション	デジタルにおける情動的知能	デジタル・クリエイティビティ	デジタルの健康と自己管理	デジタルの消費活動	デジタルの雇用と起業	デジタルにおける社会的活動・市民参加
デジタル・スキル	安全・安心な利用	オンラインでの権利と責任	コミュニケーション・リテラシー	情動的リテラシー	クリエイティブ・リテラシーと表現力	eヘルス・リテラシー	消費者啓発とリテラシー	プロダクティブ・スキル	デジタルにおける政治的リテラシー
デジタル・アイデンティティ	安全なアイデンティティ管理	責任あるネチズンアイデンティティ	参加とアイデンティティの形成	共感	コンテンツの創造と評価	自己管理と評判	消費者の自律性とデータ管理	キャリア・アイデンティティ	デジタルにおける政治的アイデンティティ
デジタルの権限向上と行為の主体性	安全なオンライン参加	デジタルフットプリント管理	コラボレーションとコミュニケーション	自己と人間関係の管理	デジタル・クリエイティビティとイノベーション	ヘルスケアとソーシャルウェルビーイング	消費者の権利とコンピテンシー	イノベーションとアントレプレナーシップ	デジタルにおける政治的活動

デジタル・シチズンシップ

## 2. インターネットリテラシー指標 (ILAS) の概説

---

# 青少年インターネットリテラシー指標(ILAS)の概要図

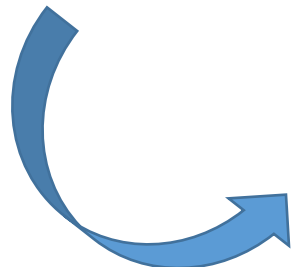


# ILASに定められた能力を測定

## ILASコンピテンシー

ILASリスク分類大項目レベルのコンピテンシーを定義

- インターネット上の違法コンテンツ、有害コンテンツに適切に対処できる。
  - 違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
  - 有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
- インターネット上で適切にコミュニケーションができる。
  - 情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。
  - 電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。
  - 利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。
- プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる。
  - プライバシー保護を回利用できる。
  - 適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。



## ILAS定義リスト

リスク分類表の小項目レベルの能力を186定義

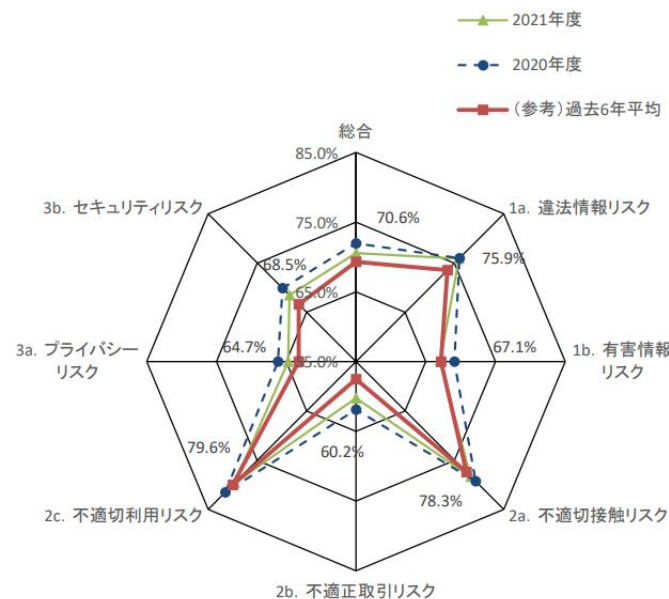
大分類	中分類	小分類	知識 (●)・事業者関係 (△)	行動 (○)
II	a	1	<b>【原理原則】</b> ●悪質な誹謗中傷、いじめ、特定の人に危害を加えるような書き込みは、深刻な人権侵害であり犯罪行為にあたる場合もあるので絶対に許されないことを理解している。 ●書き込みは、書き込んだ人の記録がサイトやプロバイダに残っており、手順を踏んで調べると特定できる可能性があることを理解している。 ●青少年の利用に配慮できていないサイトは利用すべきでなく、フィルタリングをかけることで不要なアクセスを回避できることを理解している。	
			<b>【発信者側】</b> ●インターネット上で一度公開された情報は、多くの人にすぐ広まり、完全に消すことが困難であることを理解している。 ●軽い気持ちで書いたものでも、他者を深刻に傷つける可能性があることを理解している。	○軽い気持ちで書いたことでも、書かれた相手をひどく傷つける場合があること、注目され大きな問題となりうること、他の場所に発言がコピーされる等して完全に削除できないことを理解し、不要な発信をしない。
			<b>【受信者側】</b> ●ネット上で誹謗中傷を受けた場合、発見した場合の対処方法（事業者に削除依頼、大人への相談）を理解している。	○誹謗中傷を受けても、感情的になって誹謗中傷を返したりせず慎重に対応する。 ○悪質な誹謗中傷の書き込みを受けた場合、発見した場合は、事業者に削除依頼する、もしくは大人に相談する。
			<b>【事業者の取組】</b> △青少年の利用に配慮している事業者は、悪質な誹謗中傷等の書き込みを削除するため、サイト上のパトロールを行っていること、通報窓口を設けていることを理解している。	<b>【事業者の取組の活用】</b> ○サイト上で悪質な誹謗中傷等を見つけた場合、サイト管理者等の通報窓口に通報する。

## ILASテストアイテム：49問（7リスク項目×7問）

ILAS定義リストに定められたリテラシーを測定

### 《問題例》

- 問 同じ趣味の人が集まる実名のSNSで、同性の人が会いたいとメールをしてきた時にとるべき行動で、最も適切なものはどれか。
- 実名のSNSであっても素性を偽っている場合があるので、自分だけで判断せず、保護者に相談する。
  - 実名で登録しているメンバーだから安心して会う。
  - 同性の人なので、安心して会う。
  - 同じ趣味を持つ仲間なので、いろいろ聞きたいので絶対に会う。



## 測定結果の可視化

リスク分類中項目ごとにリテラシーを可視化






### 3. 政策立案フレームワークを再考する

---

# 政策課題と目指すべきゴール像

- デジタル環境をめぐる様々なリスク
  - 従来からのリスク
    - 違法・有害情報、SNSでのディスコミュニケーション、ネットいじめ、性的搾取を目的としたサイバー・グルーミング
  - 新興のリスク
    - 指紋認証・顔認証システムなどの生体情報の流用・悪用、十分な説明のないままのデータ収集、プロファイリング
- **デジタル社会に参画**し、能力を創造的に発揮する
  - デジタル環境から得られる**利益を享受**し、**生活を豊かに**する
  - デジタル市民としての**権利を行使**するとともに**行動に責任**を持つ
- 目指すべき**ゴール像**
  - **安全に安心**して、オンラインサービスやICTを利用できる環境
  - **他者に意識**してICTを利用できる環境
  - **情報空間の健全性**を確保できる環境

# なぜ教育的アプローチによって対処するのか？

## 規制措置（事前・事後）

- 法規制の限界
- ネットワーク中立性の問題
  - 政府などの**規制機関**がデータの良し悪しを峻別して、不適切と判断したデータに対してブロッッキングするとは、いわゆるネット検閲に当たる
- 表現の自由への抵触
  - 有害情報に対する規制は、**情報発信者の表現の自由**にも抵触する恐れがあることから、政府規制による対処が困難
- 社会的コストの増大
  - **立法には幾多のプロセス**を経なければならず法案の成立には非常に長い月日を要する
  - **スピードが速いデジタル環境**では、立法した法律が施行される頃には、既にリスク自体が変化してしまう恐れがある

## 予防的措置

- 教育的アプローチ
  - **利用者をエンパワーメント**することで、**自らリスクに対処**できるように支援する
  - ↳利用者の対処能力向上を図ることで、**規制的介入を回避**する
  - ↳利用者がデジタル空間において**自由に表現**できることを確保する
  - ↳立法にかかる**社会的コスト**が発生しない

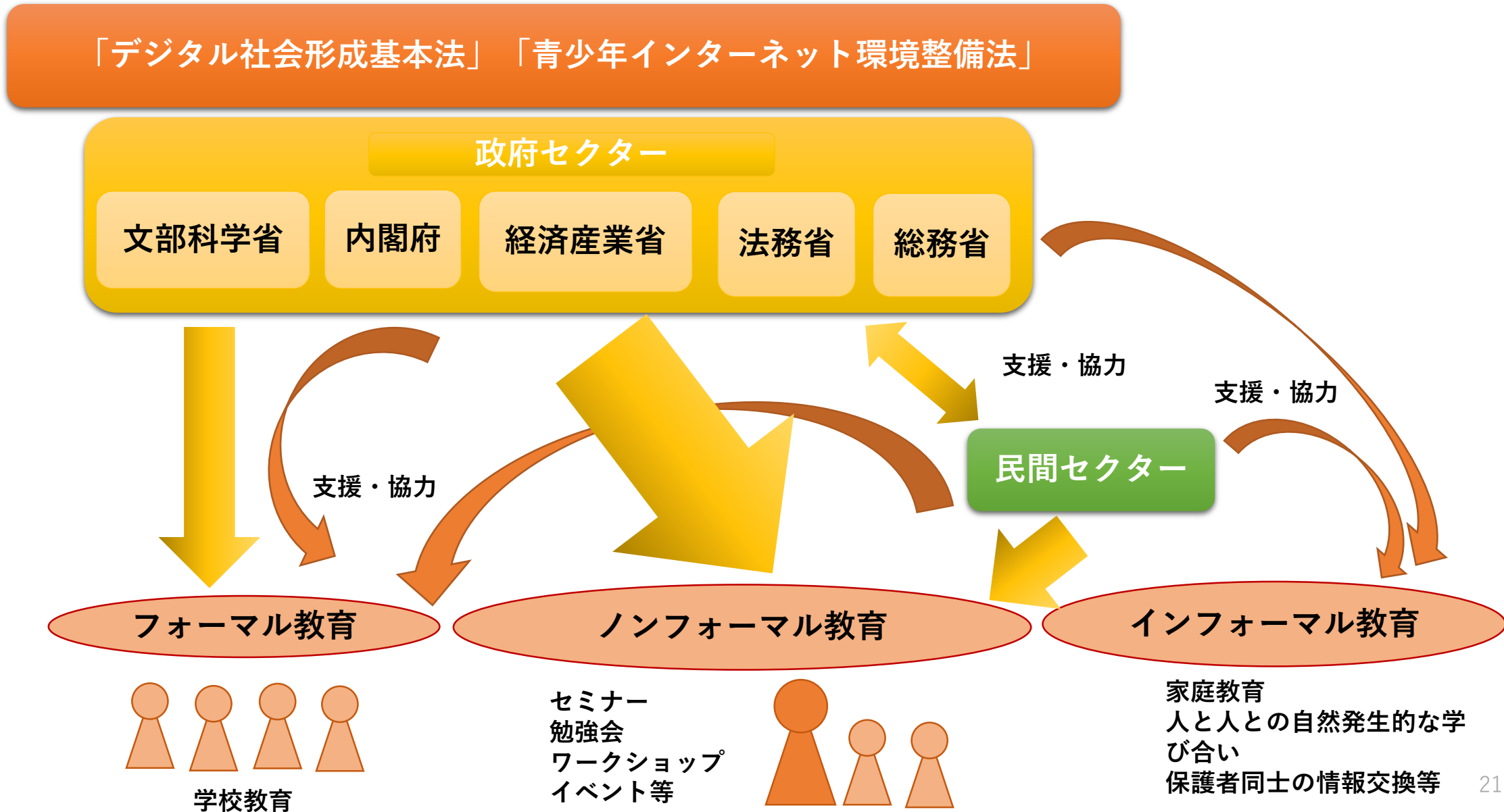
# 啓発教育における各教育形式

## 啓発教育における各教育形式の内容と対象

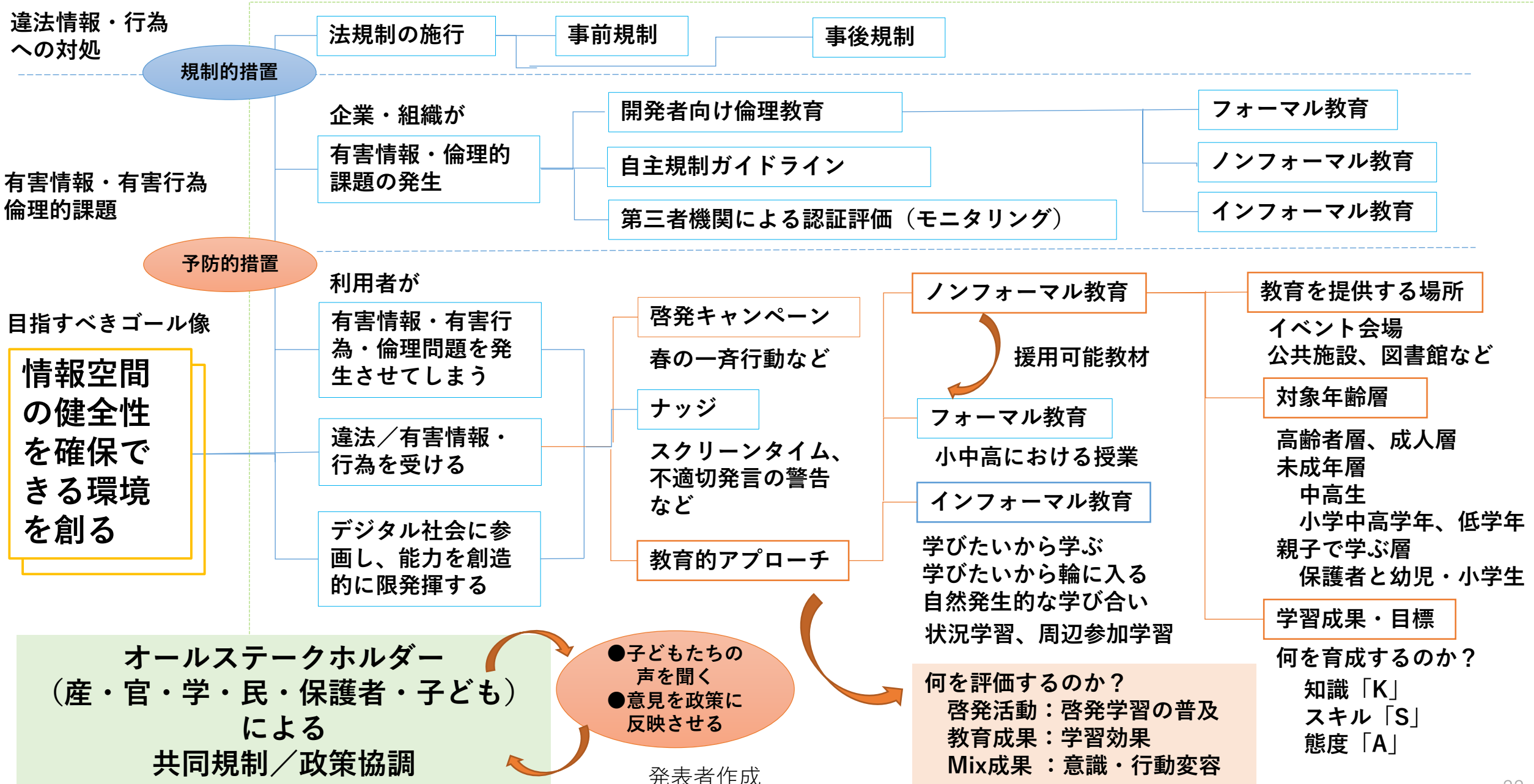
教育形式	特質	教育が行われる場所・場面
フォーマル教育	<ul style="list-style-type: none"><li>・意図的に計画された教育</li><li>・構造化された教育</li><li>・成績管理を伴う</li><li>・学校教育における授業</li></ul>	学校教育 公式機関が実施する研修
ノンフォーマル教育	<ul style="list-style-type: none"><li>・意図的に計画された教育</li><li>・構造化された教育</li><li>・セミナー、ワークショップ、イベント等</li></ul>	社会教育
インフォーマル教育	<ul style="list-style-type: none"><li>・意図がなく日常生活に発生する学び</li><li>・非構造的</li><li>・家庭での教育、保護者同士の情報交換等</li></ul>	家庭教育 OJT

出所：UNESCO（1997）とWerquin（2010）を基に発表者作成

# 啓発教育政策体制の俯瞰図



# ICT活用のためのリテラシー向上ロジックツリー



ご清聴ありがとうございました。

---